

平成21年 6月19日現在

研究種目：萌芽研究
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19659573
 研究課題名（和文） リーダーシップとデリゲーション能力が大卒看護師の
 「仕事のやりがい」に及ぼす影響
 研究課題名（英文） Effect of leadership and delegation on job fulfilment for 4-years
 college graduates
 研究代表者
 宮林 郁子 (MIYABAYASHI IKUKO)
 聖マリア学院大学・看護学部・教授
 研究者番号：40294334

研究成果の概要：

調査の結果、学部でリーダーシップやデリゲーションについての教育を行っている大学は半数で、教員は看護師の臨床における仕事のやりがいとリーダー能力は関連していると感じていた。また、学部におけるデリゲーション能力の育成の必要性も感じていた。臨床では自己のリーダー能力の評価が高く、自信があると答えた者はリーダー能力が仕事のやりがいに支配的であり、デリゲーション能力をうまく使うことで、病棟運営も良くなると考える者が多かった。

米国の2つの看護学部（ペンシルバニア州立大学およびカリフォルニア大学）の教員インタビューでは、リーダーシップ、デリゲーションの学部での教育の実際と重要性が確認された。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,600,000	0	2,600,000
2008年度	500,000	0	500,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,100,000	0	3,100,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学（看護管理学）

キーワード：①リーダーシップ ②基礎看護教育

1. 研究開始当初の背景

看護師は通常、自分が組織の中でどう行動すればよいか分かるようになって初めて自分の任務を理解し、自覚するようになると言われていたが、医療組織の中で自律性を獲得し、実践していくには組織の中での協同や連携が必須である。

だが、そこまでに到達する前に「やりがい」を失い、離職をしてしまうケースも数多くある。大卒看護師は組織の構成員としてだけ

ではなく、卒業後早くからリーダーシップを発揮して、集団・組織のメンバーが目的達成に向かって積極的・自発的にその活動に参加・貢献するように誘導し、さらに構成員相互の連帯性を維持・向上させる役割を期待されている。

しかし、そのための教育が現行の看護学基礎教育の中には殆ど入ってはいない。科目としてある看護管理学の範疇で取り扱われているに過ぎず、コアとしてカリキュラムの中

に導入されているところは少ない。

2. 研究の目的

本研究では、リーダーシップとその中の必須能力であるデリゲーション能力がどのように看護学基礎教育で教えられ、活用できるようにされているかを調査し、大卒看護師の職場での「やりがい」との関係性を明らかにしていくことを目的とする。

3. 研究の方法

平成 19 年度 (予備調査として)

- 1) 文献検討
- 2) 実態調査

国内 臨床におけるリーダーシップとデリゲーションに関する実態調査

国外 アメリカ合衆国看護系大学看護学部におけるコアカリとその教育方法について教員へのインタビュー調査

平成 20 年度以降

- 1) 平成 19 年に検討された実態調査の分析、
- 2) 学部教育におけるカリキュラム調査
対象；看護基礎教育課程へのカリキュラム調査 (国立・公立・私立)
- 3) リーダシップ育成の効果が評価できる教育カリキュラムの検討をする。

4. 研究成果

ランダムに選んだ 61 看護系大学の准教授以上に 1) に関する質問票を送付し、回答を得た。

また、臨床看護師 (4 年制卒 156 名、役職者 108 名) について 2) の質問を中心に回答を得た。

前者は回答率 38% で、臨床経験 3 年から 15 年、教育歴 5 年の総合大学の教授層からの回答が最も多かった結果、大学でリーダーシップやデリゲーションについての教育を専門課程で行っているところは、半数ほどであったが、回答した教員は看護師の臨床におけるリーダーシップ能力の必要性和仕事のやりがいとリーダーシップ能力は関連していると感じていた。また、学部におけるデリゲーション能力の育成の必要性も感じており、特に、母性・小児領域でその傾向があった。このことより、リーダー能力と仕事のやりがいについての考え方は臨床経験の蓄積によ

って認識の違いがおこってくるものと考えられる。

また、最後に、看護基礎教育課程の学生の実習病院の臨床指導者が十数名集まり、大学教授と共同で、リーダーシップとマネジメントのジャーナルクラブを設立した。

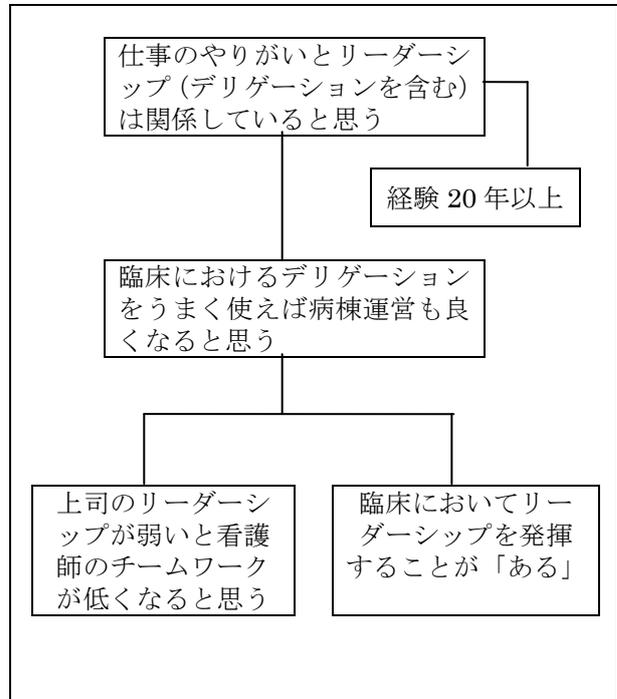


図 1. 「臨床看護師における回答傾向の相関」

表 1

「仕事のやりがいとリーダーシップ(デリゲーションを含む)の関係」経験年数による解析結果

変数	オッズ比	95%CI	P 値
経験年数 (20 年以上 vs 20 年未満)	3.1	1.3 - 7.7	0.013

考察及び結論：臨床看護能力の一つとして重要視されているリーダーシップ(デリゲーション能力)は近年医療費削減、質の保障、入院日数の短縮化を勧める政策体制の中、それに関する教育が継続教育だけでは成しきれない状況であることは明らかである。ケアチームのスキルミックス化は看護に大きな変革を求めてくると推察される。その上で、デリゲーション能力はどのレベルでも問われる能力となってくると思われる。

今回の調査で、臨床経験の長い教授職にその必要性が感じられながら、学部でのリーダーシップ、デリゲーションについての教育がされていない状況が浮き彫りにされた。

また、デリゲーション能力(リーダー能力)

は病棟運営をスムーズに行うための要素であることは臨床看護師が考えていることであり、臨床経験の少ない大卒の看護師も自分のリーダー能力に自信がもてれば、仕事のやりがいを感じる事が推測された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ①宮林郁子、矢田陽一、日高艶子、他、看護師としての「仕事のやりがい」についての意識の違い、聖マリア学院紀要、査読有、23 巻、2009、133p-136p

[学会発表] (計 5 件)

- ①宮林郁子、日高艶子、宮脇美保子、他、リーダーシップとデリゲーション能力が「仕事のやりがい」に及ぼす影響(2)、第 28 回日本看護科学学会、2008.12.13～14、福岡
- ②橋本美紀、榎谷明美、稲又智子、大石聖子、蓑田ヒロミ、日高艶子、宮林郁子、看護管理者のリーダーシップ能力の発達に影響を及ぼす要因の検討
第 12 回日本管理学会総会 2008.8
- ③宮林郁子、日高艶子、宮脇美保子、他、リーダーシップとデリゲーション能力が「仕事のやりがい」に及ぼす影響(1)、日本看護学教育学会第 18 回学術集会、2008.8.2～3、筑波
- ④宮林郁子、日高艶子、中藤ひとみ、他、臨床で求められるリーダーシップとはどのように育成されるか、日本看護科学学会ラウンドテーブル、2008.8.2～3、福岡
- ⑤中藤ひとみ、宮林郁子、日高艶子、他、看護職におけるリーダーシップに関する研究の動向、第 58 回聖マリア医学会研究会、2008.1.27、久留米市

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮林 郁子 (MIYABAYASHI IKUKO)
聖マリア学院大学・看護学部・教授
研究者番号 4 0 2 9 4 3 3 4

(2) 研究分担者

日高 艶子 (HIDAKA TSUYAKO)
聖マリア学院大学・看護学部・准教授

研究者番号 5 0 1 9 9 0 0 6

宮脇 美保子 (MIYAWAKI MIHOKO)
順天堂大学・看護医療学部・教授
研究者番号 1 0 2 6 3 4 9 3

足立 みゆき (ADACHI MIYUKI)
岐阜大学・医学部・准教授
研究者番号 2 0 2 6 3 4 9 4

(3) 連携研究者